

2016/3/6 四旬節第4主日

福音書 ルカ 15:11~32

第一の日課 I コリント 5:1~8

第二の日課 イザヤ 12:1~6

★今週の聖句

父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。ルカによる福音書 15章 20節

★ねらい

神さまは、憐れみ深い「まことの父」であることを子どもたちに伝える。

★説教作成のヒント

- ・登場人物（放蕩息子、父親、兄）のそれぞれの気持ちを考えてみよう。
- ・父親は放蕩息子の帰りをずーと待っていたよ。失われた者の回復を喜ぶ神の愛に注目してみよう。父親はどんな態度で放蕩息子を迎えたかな。
- ・弟を赦せない兄は、父親に対しても不満を抱いているね。でも父親はその兄の心に優しく語りかけているよ。父親は兄へ何かとても大切なことを伝えようとしているんだ、何だろう。

★豆知識

- ・「指輪」の所有者は父親から全権を委ねられた者、神の子の身分の回復を表す。

★説教

父の家を飛び出した放蕩息子は、持っていたお金を全部使い果たしてしまいました。ふところはすっからかんで、豚のエサを食べたいと思うほどお腹が空いていました。どん底の暮らしに、彼ははじめて父の家を懐かしく思い出しました。彼は何と言って後悔しているのでしょうか。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません」。そして、彼は父の家へ帰る決心をしました。

一方、お父さんは息子の帰りをひたすら待っていました。息子の姿を見つけると、遠くから走り寄って来て、息子をしっかりと抱きしめました。息子はお父さんに悪いことをしたなと思っていましたから、お父さんに怒られるかもしれないと覚悟をしていました。けれども、お父さんは息子の帰りを喜んでくれたのです。そして、息子に晴れ着と指輪を与え、宴会を開いて、美味しい食事で息子の帰りを迎えました。お父さんは何と言って喜んでいるのでしょうか。「この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」。イエスさまも死んで三日目によみがえりましたね。

けれども、兄は弟の帰りを素直に喜ぶことができません。真面目な兄はお父さんが弟を咎めず、簡単に赦してしまったことが面白くないのです。ふてくされて家の中へ入ろうとしません。そこでお父さんは兄に対しても優しく諭しました。「子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ」。兄はお父さんに対して、「子山羊一匹すらくれなかった」とすねていますが、父は「わたしのものは全部お前のもの」と言っています。実は、お父さんが与えたかった一番の財産は、父の心、人を赦す広いお心でした。お父さんの持っている財産の中でも最上級の宝です。

神さまのお心は海のように広くて深い。神さまは悔い改める者には赦しをもって、背き逆らう者には裁きをもって、共に愛しておられます。いつの時にも我が子を愛し、罪人の立ち帰りを待っておられるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□34番 「かいぬしわがしゅよ」

□改訂版55番 「小さい羊が」

やってみよう

※（イースターの準備）

イースターエッグやひよこの絵をたくさん描き、切り抜く（イースターにみんなで飾る）。

はなそう

□「放蕩息子」と「父親」とは誰の事でしょうか。

福音書 ルカ 20 : 9～19

第一の日課 フィリピ 3 : 5～11

第二の日課 イザヤ 43 : 16～28

★今週の聖句

家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。ルカによる福音書 20 章 17 節

★ねらい

イエスさまを心に迎え、私たちの「命の土台」であることを子どもたちに伝える。

★説教作成のヒント

- ・ 登場人物を確認してみよう。ぶどう園の主人＝神さま、農夫＝イスラエルの民（私たち）、僕＝預言者、わたしの愛する息子＝イエスさま。
- ・ 捨てられたイエスさまが「隅の親石」になったよ。家を建てる者＝祭司長や律法学者。家はユダヤ教の神殿という意味と、隅の親石が基となる新しい家＝教会という意味の二つがあるね。
- ・ 隅の親石は「揺るがぬ土台」を表すが、18節の「その石」は「躓きの石」や「妨げの岩」（イザヤ 8 : 14）という意味。老シメオンが「この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています」（ルカ 2 : 24）と言っているように、祭司長たちにとって隅の親石は、躓きの石であった。

★豆知識

- ・ ぶどう園はイスラエルの民を表す。イザヤ書 5 章「ぶどう畑の歌」を読んでみよう。
- ・ 神殿は石造りだけど、普通の家は日干しレンガで造られていたよ。

★説教

ぶどう園の主人に収穫を納める時が来ました。しかし、欲張りな農夫たちは、それを惜しんで、僕を袋叩きにし、次々と追い返してしまします。主人は考えました。わたしの愛する息子なら敬ってくれるだろう。しかし、農夫たちは跡取りの息子を殺してしまったのです。このぶどう園の主人は神さまです。では、わたしの愛する息子は誰でしょう。そう、イエスさまですね。イエスさまも捨てられて、十字架の上で死んでしまいました。捨てられた「隅の親石」とはイエスさまのことなのです。

石は固くて頑丈です。昔の家は日干しレンガでできていました。泥をこね、レンガの形を作り、それを天日で干しました。そして、土台の石の上にレンガを乗せて家を建てました。土台がしっかりしていると、家は頑丈ですね。けれども、砂の上に家を建てたとしたら、どうでしょう。大雨が降れば、たちどころに流されて、家は倒れてしまいます。家は頑丈な場所に建てなければなりません。隅の親石は揺るがぬ土台でした。

また、固い石はいろいろな道具にもなります。昔は石で矢じりや斧が作られました。石矢を放てば、動物や鳥を仕留めることができます。石斧で樹木を伐採したり、獲物の肉を切り裂きました。このように石は打ち砕く、破壊する力を持っています。神さまのみ心に背く悪に対しては、み言葉は、矢じりや石斧のように、その悪の根を打ち砕きます。

隅の親石は、家の基礎となる土台の石です。祭司長や律法学者たちに捨てられたイエスさまが、神さまのみ力によってよみがえり、私の命の土台なってくれました。イエスさまは揺るがぬ岩です。これを拠り所とする時、私たちの心も強くなります。心に揺るがぬ岩を据えましょう。イエスさまを心の土台とする時に、私たちは、復活、絶えずよみがえりの命の力をいただき、元気に過ごすことができます。落ち込んでいる人に、隅の親石であるイエスさまを教えてあげたいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□63番 「あさひうけて」

□改訂版127番 「朝日うけて」

やってみよう

※（イースターの準備）

イースターうさぎを描き、切り抜きイースターにみんなで飾る。

はなそう

□「ブドウ園の主人の息子」とは誰のことをたどっているのでしょうか。

□律法学者や祭司長たちが「手を下そう」としたのはなぜでしょうか。

2016/3/20 枝の主日

福音書 ルカ 19 : 28~48

第一の日課 フィリピ 2 : 6~11

第二の日課 ゼカリヤ 9 : 9~10

★今週の聖句

言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。ルカによる福音書 19 章 40 節

★ねらい

イエスさまが「救い主」「平和の王」であることを子どもたちに伝える。

★説教作成のヒント

- ・ 子ロバはメシアのしるし（ゼカリヤ 9 : 9）。武力を表す馬と比べて、ロバは荷を負う家畜から、人間を助けて仕える者を表す。
- ・ ルカ福音書には「ホサナ」（お救いください）という言葉がなく、代わりに「天には平和、いと高きところには栄光」。聖なる夜に羊飼いたちの前に現れた天使の讃美（ルカ 2 : 14）に似ているね。
- ・ イエスさまは、なぜ、泣いているの。イエスさまは都エルサレムがローマ軍によって、壊滅的に破壊されるのを知っていました。人々は平和の道を知ろうとせず、争いと破壊を繰り返しています。イエスさまは、滅びに向かう人々を憐れんで、泣いています。

★豆知識

- ・ 石は出来事の見撃者（証拠やしるし）の意味があるよ「見よ。この石がわたしたちに対して証拠となる。この石は、わたしたちに語られた主の仰せをことごとく聞いているからである」（ヨシュア 24 : 27）。神蹟現に出会ったヤコブは「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった」と言って、枕にしていた石を記念碑にしているね。

★説教

エルサレムの人々はメシアの到来を待ち望んでいました。メシアは、油注がれた者、救い主の意味です。イエスさまの時代から 560 年前に、ゼカリヤという預言者がいました。ゼカリヤは「メシアはロバの子に乗って来る」と、預言していました。その言葉の通り、イエスさまは子ロバに乗ってエルサレムの都に現れました。人々は自分の服を道に敷いて、イエスさまを「救い主」として喜び迎えました。大勢のお弟子さんたちが讃美しています。何て言っているかな。「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光」。イエスさまは平和をもたらす王として、馬ではなくロバに乗って登場しています。イエスさまは「平和の王」でした。

けれども、にぎやかなお弟子さんたちの声を「いったい何の騒ぎだ」と腹を立てる人たちがいました。律法学者とファリサイ派の人々です。イエスさまの人氣が面白くありません。そこで、イエスさまに「お弟子たちを叱ってください」と言いました。イエスさまは、何と答えたでしょう。「もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す」。面白い表現ですね。「石が叫ぶ」なんてことがあるのでしょうか。神さまへ向かって叫ぶ声を、人が黙らせることはできません。神さまは、喜び、讃美、嘆き、呻き、すべての声に耳を傾けておられます。イエスさまが進む道には石も転がっていて、その石はイエスさまが、救い主、平和の王として迎えられた讃美の声を確かに聞いていたのです。

また、道を進むイエスさまの前にエルサレムの神殿が見えて来ました。大きくて立派な神殿です。けれども、イエスさまは神殿を見て泣いておられます。なぜでしょう。神殿はやがて崩壊します。イエスさまを救い主として認めない人々が、争いを繰り返し、平和の道を知ろうとしないからです。戦争に敗れ、崩れた神殿の石が、その証拠となります。

子ロバに乗ったイエスさまを私の救い主としてお迎えしましょう。私たちの心に平和の王が訪れてくださいます。いつもイエスさまを覚えて、いつもイエスさまを讃美していきたいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□33番 「よろこべや」

□改訂版82番 「ダビデの子、ホサナ」

やってみよう

※「今週の金曜日はイエス様が十字架にかかったことを覚える日です」の説明をして、画用紙、または折り紙

で十字架を作る。

※（イースターの準備）自分の絵を描き、切り抜いてストックしておく。

はなそう

今週の金曜日はイエス様が十字架にかかったことを覚える日です。

□イエス様はなぜ十字架にかかったのでしょうか。

□イエス様のお苦しみを覚えて、1週間、生活の中でなにかを我慢することにチャレンジしてみましよう。たとえば「好きなお菓子を食べること」とか「好きな漫画を読むこと」とか...

2016/3/27 復活祭

福音書 ルカ 24 : 1~12

第一の日課 I コリント 15 : 21~28

第二の日課 出エジプト 15 : 1~11

★今週の聖句

あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。ルカによる福音書 24 章 6 節

★ねらい

イエスさまはよみがえられた、福音のメッセージを子どもたちと一緒に聞こう。

★説教作成のヒント

- ・ 福音は、み使いからマリアたちへ、マリアたちから弟子たちへ、弟子たちから福音書へ、福音書から私たちへ、私たちが隣人へ、人から人へ伝えられているね。
- ・ 聞いて信じなかった弟子たち、ただ一人ペトロだけが立ち上がって墓へと向かう。福音を聞いて立ち上がる力を得たペトロ、ペトロに働く聖霊の力、み言葉の力、語る私たちにも聖霊の力が働いているよ。

★豆知識

・ 朝一番にお墓へ行ったのは誰だろう？福音書によって人数が違うね。マタイは2人、マルコは3人、ルカは3人+複数、ヨハネはマグダラのマリア1人。確認してみよう。

★説教

安息日が明けたので、マグダラのマリアと女性たちは、急いでお墓へ出かけました。彼女たちは手に何を持っていたのでしょうか。そう、香りのよい油です。

イエスさまの十字架の死から三日間、マリアたちは泣いて悲しみながら過ごしました。心は張り裂けんばかり、イエスさまが可愛そうでならなかったのです。せめて埋葬だけでも手厚く葬りたい、彼女たちはそのように相談していました。

また、ペトロと弟子たちは、死の恐怖に震えていました。自分たちもイエスさまのように逮捕され、殺されるのではないかと考え、兵士たちを恐れていました。そこで、戸口にしっかりと鍵をかけ、家の中でじっと隠れていました。

マリアたちがお墓へ到着すると、驚くことに墓の入口をふさぐ大きな石が、わきへ転がしてありました。いったい誰が動かしてくれたのでしょうか。大きな石は女性の力では動かすことができません。墓をのぞくと、そこにあるはずのイエスさまのお身体がありません。誰かが持ち去ってしまったのでしょうか。マリアたちが困っていると、白く輝く二人のみ使いが現れて言いました。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」。

女性たちは墓から帰ると、この出来事をすべて弟子たちに伝えました。でも、弟子たちは彼女たちの言葉を信じることはできません。けれども、ただ一人ペトロだけが、聞いて、お墓へと走って行きました。墓をのぞくと、そこにイエスさまのお身体はなく、亜麻布だけが置いてありました。ペトロは不思議に思いました。

福音の知らせは、悲しんでいたマリアたちへ、死の恐怖に震えていた弟子たちへ、伝えられていきました。彼らは、聞いて、すぐに信じたわけではありません。しかし、福音の知らせは、少しずつ、彼らに立ち上がる力を与えました。イエスさまは生きておられます。何という嬉しい知らせでしょうか。イエスさまは死者の中にはおられません。復活してよみがえったのです。イエスさまを信じるならば、私たちにも絶えず、復活の力、よみがえりの命、生きる勇気が与えられます。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□40番 「よあけのほしが」

□改訂版86番 「夜明けの星が」

やってみよう

※お互いにイースターのお祝いを交わす

※イースターエッグ（またはそれに代わるもの）探し

※ストックしてある絵などをみんなで飾る。

※画用紙にひよこの絵を描き、色を塗りしおりにする。

はなそう

□お墓に行った女の人たちはどんな気持ちだったでしょうか。

□話を聞いた11人と他の人たちはどんな気持ちだったでしょうか。